

第 4 期広域計画中間案について

1 第 4 期広域計画策定の趣旨

東京一極集中や少子高齢化の進展など、関西が直面する現在の社会情勢への対応に加え、「ワールドマスターズゲームズ2021関西」や「2025年大阪・関西万博」などの世界的イベントを活用した関西のポテンシャルの発信、女性活躍の推進、「持続可能な開発目標(SDGs)」やSociety5.0への対応などの新たな課題を踏まえ、今後の3年間に取り組むべき広域事務と政策の企画調整、並びに分権型社会実現を目指した取組を明らかにするため、新たな計画を策定してまいります。

2 第 4 期広域計画の特徴

①これまでの取組の成果、課題に加え、「広域行政のあり方検討会報告書」「広域計画等フォローアップ委員会提言」等の意見をもとにした新たな視点等を踏まえて作成。

内容	記載・反映箇所（ページ）
「東京2020オリンピック・パラリンピック」「ワールドマスターズゲームズ2021関西」の効果を関西全体に波及させるための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・目指すべき関西の将来像の提示（P7） ・広域観光・文化・スポーツ、広域インフラ等の取組（P15～20、P30） などに反映
「2025年大阪・関西万博」開催に向けた対応と、その効果を関西全体に波及させるための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・目指すべき関西の将来像の提示（P7） ・広域観光・文化・スポーツ、広域インフラ等の取組（P15～20、P30） などに反映
「持続可能な開発目標（SDGs）」や、Society5.0等、世界の潮流を踏まえた対応	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs：広域産業や環境保全の取組、関西SDGsプラットフォーム、女性活躍の推進等の取組（P21～27） ・Society5.0：広域観光でのICTの活用、農林水産業振興での「スマート農業」の推進、医療分野でのインダストリー4.0（ビッグデータ、AI、IoT）の活用推進、5Gの応用（P15、P24） などに反映
在関西政府機関と連携した取組	<ul style="list-style-type: none"> ・文化庁、消費者庁新未来創造戦略本部、総務省統計局統計データ利活用センターとの連携強化（P32～33） などに反映
広域連合が目指すべき関西の将来像に関する基本的な考え方の変更	第3 広域連合が目指すべき関西の将来像 1 基本的な考え方（P7～8）
目指すべき将来像が実現した姿を具体的にイメージできるよう明示	第3 広域連合が目指すべき関西の将来像 2 将来像（P8～10）

内容	記載・反映箇所（ページ）
広域連合の設立から10年を迎えることから、これまでの取組の総括を、現行計画期間の総括ではなく、設立時から10年間を総括	第2 これまでの取組の総括（P3～6）
伝統や文化、食、ファッションなどが持つ魅力によって人を惹きつける「ソフトパワーの活用」について	第3 広域連合が目指すべき関西の将来像 1 基本的な考え方 (2) 個性や強み、歴史や文化を活かして地域全体が発展する関西（P7）
広域連合が、関西の力を総合化する結節点となることについて	第3 広域連合が目指すべき関西の将来像 3 将来像実現に向けた広域連合の役割（P10）
国の出先機関との連携や協力について	第4 第4期広域計画の取組方針 4 分権型社会の実現（3）地方分権の推進 ①国の出先機関の地方移管（P34）
国に対する「地方分権特区」制度導入の働きかけについて	第4 第4期広域計画の取組方針 4 分権型社会の実現（3）地方分権の推進 ②国の事務・権限の移譲（P34）

② 広域連合が目指すべき関西の将来像

基本的な考え方の変更

第3期広域計画

- (1) 国土の双眼構造を実現し、分権型社会を先導する関西
- (2) 個性や強みを活かして、人の環流を生み出し、地域全体が発展する関西
- (3) アジアのハブ機能を担う新首都・関西



第4期広域計画案

- (1) 国土の双眼構造を実現し、分権型社会を先導する関西
- (2) 個性や強み、歴史や文化を活かして、地域全体が発展する関西
- (3) アジア・世界とつながる、新たな価値創造拠点・関西

5 今後のスケジュール

10月	第2回広域計画等推進委員会	: 中間案への意見聴取
10月	広域連合委員会	: 中間案の協議
11月中	パブリックコメントの実施	: 中間案への意見照会
12月	第3回広域計画等推進委員会	: 広域計画(案)への意見聴取
1月	広域連合委員会	: 広域計画(案)の確定
3月	広域連合議会	: 広域計画の議案提出